

学則変更の趣旨等を記載した書類

第1 学則変更（収容定員変更）の内容

医学部医学科の令和6年度の入学定員110名のうち15名は、平成30年度の「地域の医師確保等」による5名（平成21年度から平成29年度までの5名の臨時的増員分について、平成29年11月に認可を受け平成31年度まで延長）、平成22年度の「経済財政改革2009」による7名（平成31年度まで）、平成23年度の新成長戦略による3名（平成31年度まで）の計15名について、令和元年度の「地域の医師確保等」により令和3年度まで、令和3年度の「地域の医師確保等」により令和4年度まで、令和4年度の「地域の医師確保等」により令和5年度まで、令和5年度の「地域の医師確保等」により令和6年度までの臨時的な定員増を実施したものである。

また、令和6年度の編入学定員は2年次編入が5名、収容定員は685名である。

今回の14名の入学定員の増員は令和6年度を期限とする医学部臨時定員について、15人から14人と増員幅を見直した上で、その延長による令和7年度までの増員である。

第2 学則変更（収容定員変更）の必要性

高知県は全国的には人口あたり医師数は多いが、医師が高齢化している状況にある。また、40歳未満の医師は微増となっているが、首都圏などの都市部と比較すると増加率が低い状況である。さらに、地域による偏在があり、高知市を含む中央医療圏以外では医師の減少は顕著であり、地域の医療を担う医師の確保の必要性は続いていると考えられる。

今回の14名についても高知県の地域の医師確保等に関する計画のなかで、高知大学医学部入学定員増を地域の医師定着策として位置づけ、奨学金の確保を行っており、令和7年度の1年間14名枠を高知県定着に向けた地域枠として取扱い、医学部医学科収容定員の増員（継続）を行うものである。（資料1）

第3 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

I 地域医療を担う医師の養成に関する取組

1. 地域医療への関心と意欲を高めるためのカリキュラム

医学科の新入生が早期より医療の実際に触れ将来の医療人としての心構えや態度を身に付けるため、1年次に「EME 初期臨床医学体験」として大学附属病院・市中の診療所等で実習を行っている。2年次には生活環境・地域環境と健康のかかわりについて理解するとともに、疫学とその応用、その疾病について理解する「基礎社会医学」、3年次には地域に求められる役割と機能及び体制等地域医療のあり方を学ぶ「地域医療学」、4年次には文献考察、調査、研究等を通じて社会医学の活動の重要性について理解を深める「社会医学演習」を実施している。5～6年次の「臨床実習Ⅰ・Ⅱ」では、へき地医療機関等

での地域医療学実習や、地域医療支援病院等での学外実習を通じて、指導医の指導・監視の下、実際の診療に関与するなど、高知県内の医療の実情について俯瞰的に学ぶことができるカリキュラムを構築している。

さらに、令和4年度、高知大学は、三重大学、和歌山県立医科大学と連携して文部科学省補助事業「ポストコロナ時代における医療人材養成拠点形成事業」に申請し、採択された。「黒潮医療人養成プロジェクト」と命名したこの事業は、高知県立あき総合病院、高知県立幡多けんみん病院を教育拠点病院と位置づけ臨床体験実習や長期滞在型のクリニカルクラークシップを実施するほか、「先端医療学コース」として地域総合診療コース、医療DXコース、災害救急・感染症コースを準備し、複数年次にわたりアクティブラーニングを実施している。オンラインシンポジウム、ICTの活用、大学間での学生相互交流なども実施している。今後も、全ての学生に質の高い地域医療教育を実施する目的でカリキュラムの充実を図っていく。（資料2、資料3、資料4）

2. 地域医療教育の統括的な組織の設置

平成16年度に「医学教育創造・推進室」を設置（令和4年6月から「医学教育創造センター」に組織変更）し、6年間の学部教育全般にわたる業務にあたっている。同室の室長は、従来は兼任であったが、平成21年7月から専任の教授を配置し活動内容を強化した。平成19年7月に寄附講座「家庭医療学講座」を設置し地域医療教育の統括組織として実践的な活動が可能となった。その活動の一環として、医学生に家庭医療の重要性を理解させるために、地域医療の現場において家庭医療を実践している医師・コメディカルスタッフと交流するとともに、基本的な診療技能、コミュニケーション能力の向上を目指す「家庭医道場」を実施してきた。（令和2年度以降については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止）また、家庭医療学講座教授は高知地域医療支援センター副センター長を兼任し、地域卒業生の支援、実習機会の確保にあたっている。これらの業績が高く評価され、令和4年度から更に5年間の寄附講座の延長が決定されている。（資料5）

3. 教員組織

本学医学部医学科では、基幹教員218人（教授45人、准教授31人、講師36人、助教106人）、基幹教員以外の教員（助手を除く）230人（兼担175人、兼任55人）を配置し、教員組織を編成し、上記のカリキュラム等を実施する。また、共通教育の実施に当たっては、1年次配当の教養科目を中心に、全学出動での担当体制を敷き、全学部の教職員が協働して実施する。

本学では、このような教員組織・担当体制のもので、令和6年度まで15名増員された入学定員110人の下で、医学部医学科の教育を実施してきた実績を有しているため、今回申請の収容定員変更に伴い、14人の入学定員を増員し109人の規模で教育を行う場合にも、教育の質を十分に担保することができる。

4. 施設・設備の状況

本学医学部医学科の教育を実施するに当たり、使用するキャンパス及び施設・設備の状況は、本設置計画書の「2以上の校地において教育を行う場合のそれぞれの校地ごとの状況」に示している通りである。

このような校地、施設・設備を活用し、令和6年度まで15名増員された入学定員110人の中で、医学部医学科の教育を実施してきた実績を有しているため、今回申請の収容定員変更に伴い、14人の入学定員を増員し109人の規模で教育を行う場合にも、教育の質を十分に担保することができる。

5. 卒後臨床研修の取り組み

高知県内の主要な病院及び高知医療再生機構と連携し、高知県内で特色ある地域医療研修プログラムを実践している。

本院のプログラムにおいては、専門性の高いものとして、小児科・産婦人科の重点コースに加えて、内科・外科重点コースを作成している。高知県内の5つの基幹型臨床研修病院とのたすきがけプログラム（大学と各々の病院で1年ずつ研修）により、地域密着を進めた臨床研修を行っている。また、他の基幹型臨床研修病院から本院診療科へ出向研修医を多く受け入れている。

6. 高知県医師養成奨学貸付金受給者への支援

受給学生と日常的にコンタクトを取り、日常の相談から将来のキャリア形成の支援を行えるように個別面談を行っている。面談は家庭医療学講座教授が担当し、何らかの対応が必要な場合には、事務担当者会（後述）で情報共有、協議を適宜おこなっている。

高知県、高知医療再生機構及び高知地域医療支援センター（医学部に設置）及び大学（学生課等）で毎月1回事務担当者会を開催し、課題についての検討や情報共有を行っている。また、奨学金償還期間内医師の勤務する医療機関等の関係者が集まる会議（高知県医師養成奨学貸付金制度等運営会議）を年1回以上、開催している。

平成30年度、地域枠等従事要件を有する医師の義務と両立を図るために都道府県はキャリア形成プログラムを策定するよう定められた。令和3年12月、厚生労働省からキャリア形成プログラム運用指針の改正が示され、都道府県は学部教育において大学と連携し、キャリア形成卒前支援プランを策定し、地域枠学生に学生実習や講義の支援をおこなうことが追加され、令和5年度入学者からは、キャリア形成卒前支援プランが適用されている。本学においても従来実施してきた「幡多地域医療道場」、定期面接、臨床研修病院説明会、高知県知事との意見交換会等の事業をキャリア形成卒前支援プランとして位置づけ継続している。また、「ポストコロナ時代における医療人材養成拠点形成事業」も含め、充実した支援をおこなっている。（資料6）

7. 医師の派遣・紹介の取り組み

附属病院は、常勤医師を県内 60 の医療機関に対し延べ 297 人、非常勤医師を県内 182 の医療機関に対し延べ 793 人派遣している。常勤医師の派遣を決定するシステムとして平成 16 年度から、次の 3 項目(1)病院長推薦要請、(2)医師異動の調整要請、(3)新たな常勤医師の紹介等に関することについて検討することを目的に、大学関係者以外の外部委員として高知県の医療担当課長等を含む 12 名で組織した高知大学医学部地域医療支援委員会を設置している。本委員会では公正さを確保するために、派遣に関する基準(①急性期病院であること②地域性③高知県の医療政策を担うとされる医療機関であること)を設けて検討している。

今後も、高知大学医学部地域医療支援委員会はこれまで通り継続する。同時に、医師派遣の必要性についても公正に検討し、真に必要な地域、医療機関への医師派遣を行う。

II I のほか地域の医師確保の観点からの取組

1. 県内高校生等への啓発活動

入試説明会やオープン・キャンパス等に加え、医学部長・入試委員・在学生が高知県内の主な高校を訪問する中で、地域枠入試・奨学金制度等の説明を実施する。さらに、高校の進学担当者との懇談会を開催するなど、地域医療に貢献する意欲のある学生を集める取り組みを継続する。併せて、医学部案内・医学部入試ポスターの配布やホームページの充実などの PR を充実させる。

2. 地域医療機関との連携

平成 17 年 4 月に高知県内の医療機関をネットワークで結び医療資源を効率的に提供することを目的とした高知ヘルスシステムの充実、遠隔病理診断システム、慢性腎臓病 (CKD) やウイルス性肝炎の地域連携パスを充実させた。

また、ICT を活用した「高知医療介護情報連携システム」(高知県補助事業)を構築し、高知県下の医療機関・介護事業所との連携に取り組み、参加事業所数は令和 5 年度末現在、359 事業所となっている。さらに、入院患者の状態に合わせたスムーズな転院を実現し、さらに高知県内医療機関の病床機能分化・連携を促進するため、ICT を活用した転院支援システムの開発を行うなど在宅医療等地域医療連携の充実に貢献している。

3. 女性医師への支援

女性医師のキャリア形成と、妊娠、出産といった女性特有の事項との両立を支援するための受け入れ体制として平成 19 年 2 月に整備した「高知大学女性医師キャリア形成支援プログラム」を継続し女性医師の労働を支援する。本制度により女性医師を受け入れた部署は、勤務時間帯や業務内容の希望にも柔軟に対応し、そのキャリアの継続・再開について可能な限り支援を行うものとしている。平成 18 年 4 月に院内保育所「こはすキッズ」

を設置し、希望に応じて 24 時間保育（水・木）と土日保育（第三週を除く）にも対応している。また、平成 26 年 8 月より、病後児保育（定員 3 名）を行っている。このことから、出産や育児の時もできるだけ休職しないで済む、女性医師が働きやすさを実感できる病院作りを行っている。（資料 7）

高知大学医学部学則変更の趣旨等を記載した書類

【 資 料 目 次 】

- 資料 1 : 令和 7 年度 医学部入学定員増員計画（高大医総第 1000 号）

- 資料 2 : 教育課程等の概要

- 資料 3 : 地域医療に関する学部教育のカリキュラムの概要

- 資料 4 : 黒潮医療人養成プロジェクト

- 資料 5 : 高知大学医学部寄附講座（家庭医療学講座）

- 資料 6 : キャリア形成前支援プラン

- 資料 7 : 病後児保育の実施について

令和7年度
医学部入学定員増員計画

高大医総第1000号
令和6年8月23日

文部科学省高等教育局長 殿

国立大学法人高知大学長
受田 浩之

「地域の医師確保等の観点からの令和7年度医学部入学定員の増加について（令和6年8月7日文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知）」を受けて、標記に関する資料を提出します。

<連絡先>

責任者連絡先	職名・氏名	医学部長 井上 啓史
	TEL	088-880-2200
	FAX	088-880-2227
	E-mail	keiji@kochi-u.ac.jp

大学名	国公立
高知大学	国立

1. 現在（令和6年度）の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
110	5	0	685



(収容定員計算用)

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	計
(ア) 入学定員	110	110	110	110	110	110	660
(イ) 2年次編入学定員	5	5	5	5	5	0	25
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	115	115	115	115	110	110	685

2. 本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和7年度の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
95	5	0	595



(収容定員計算用)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	計
(ア) 入学定員	95	95	95	95	95	95	570
(イ) 2年次編入学定員	5	5	5	5	5	0	25
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	100	100	100	100	100	95	595
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

3. 令和7年度の増員計画

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
109	5	0	609



(収容定員計算用)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	計
(ア) 入学定員	109	95	95	95	95	95	584
(イ) 2年次編入学定員	5	5	5	5	5	0	25
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	114	100	100	100	100	95	609
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

増員希望人数 **14**



(内訳)

(1) 地域の医師確保のための入学定員／編入学定員増（地域枠）	14
(2) 研究医養成のための入学定員／編入学定員増（研究医枠）	0
計	14

1. 地域の医師確保のための入学定員増について

増員希望人数 14

(1) 対象都道府県名及び増員希望人数

	都道府県名	増員希望人数
大学が所在する都道府県	高知県	14
大学所在地以外の都道府県		
計		14

※「大学所在地以外の都道府県」が5都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(2) 修学資金の貸与を受けた地域枠学生の確保状況

都道府県名	R5地域枠定員 (※1)	R5貸与者数 (※2)	R6地域枠定員 (※1)	R6貸与者数 (※2)	R5とR6の貸与 者数のうち多い 方の数
高知県	15	22	15	20	22
					0
					0
					0
					0
計	15	22	15	20	22

(※1) 臨時定員分のみご記入ください。

(※2) 恒久定員の中で地域枠を実施している場合、恒久定員分の地域枠の人数も含めた修学資金の貸与実績をご記入ください。

※6都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(3) 令和7年度地域の医師確保のための入学定員増について

1. 大学が講ずる措置

1-1. 地域枠学生の選抜

① 令和5年度に実施した地域枠学生(令和6年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行った場合には、それぞれご記入ください。また、参考として学生募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	診療科の選定の有無	(診療科の選定(推奨)がある場合)その診療科名	開始年度	備考
				うち臨時定員分						
学校推薦型選抜Ⅱ(四国・瀬戸内地域枠)	(i) 学校推薦型選抜	別枠(区別型)	20	15	大学入学共通テストの成績は、令和6年度の成績を利用して判定します。 大学入学共通テストの成績は、令和6年度以外の成績は利用しません。 令和6年度大学入学共通テストの成績、面接に加え、調査書、推薦書、志望理由書を総合して判定します。 面接は、個人面接の方法で行い、志望動機、意欲、適性等について総合的に評価します。面接時間はおおよそ15分です。ただし、面接評価のみで不合格にすることがあります。調査書、推薦書、志望理由書は面接の資料とします。	四国・瀬戸内地域(高知県、香川県、徳島県、愛媛県、兵庫県、岡山県、広島県、山口県)の高等学校を2022年4月から2024年3月までに卒業又は卒業見込みの者で、高等学校長が責任を持って推薦でき、かつ、次の(1)から(5)のすべての要件を満たす者 (1) 高知県内の地域医療に従事する強い意欲を持つとともに、卒業後は高知県内の地域医療に貢献することを確約できる者 (2) 調査書の全体の評定平均値が4.3以上の者 (3) 医療従事者に不可欠な問題解決能力、態度・習慣、適性を具備している者 (4) 合格した場合は、入学することを確約できる者 (5) 入学した場合は、「高知県医師養成奨学貸付金」を6年間受給することを確約できる者	無		H21以前	
一般選抜	(iii) 一般選抜地域枠(前期・後期)	手挙げ(事前)	5	0	(1) 入学者の選抜は、令和6年度大学入学共通テスト、個別試験等(科目試験、小論文、面接、実技)及び調査書を総合して判定します。 ※大学入学共通テスト(大学入試センター試験)の過年度成績利用は行いません。 また、各学部・学科・課程、コース等で必要とされる大学入学共通テストの利用教科・科目を受験していない者は、個別試験等を受験することができません。 (2) 次の学部・学科等の後期日程においては、入学者選抜を実施しません。(医学部医学科、ほか) (3) 医学部においては、面接評価のみで不合格にすることがあります。 (4) 医学部医学科の第1段階選抜の実施 医学部医学科の前期日程試験においては、志願者数が募集人員の4倍を超えた場合、個別試験等を適切に実施するため大学入学共通テストの成績により第1段階の選抜を行い、その合格者に対して、本学が実施する個別試験等を行います。 (5) 医学部医学科「地域枠(大学独自枠)」の選抜(前期日程) 医学部医学科の前期日程に関しては、一般枠・地域枠(大学独自枠)の区分なく全受験者のうちから合格者を決定します。さらに合格者のうち、地域枠(大学独自枠)志願者の中から募集人員の範囲内で地域枠(大学独自枠)の合格者となります。なお、学校推薦型選抜Ⅱの募集人員に欠員が生じた場合は、地域枠(大学独自枠)の募集人員に加えられます。	次の(1)から(3)のいずれかに該当し、かつ、志望する学部・学科等が指定する令和6年度大学入学共通テストの教科・科目を受験した者として、 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者又は2024年3月卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は2024年3月修了見込みの者 (3) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第150条(第6号を除く)の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者又は2024年3月31日までにこれに該当する見込みの者 医学部医学科「地域枠(大学独自枠)」出願資格(前期日程) 地域枠(大学独自枠)は、現在の居住地域及び出身学校等に関係なく高知県内の地域医療に従事する強い意欲を持つとともに、卒業後は高知県内の地域医療に貢献することを確約できる者を全国から募集するものです。この前期日程医学部医学科「地域枠(大学独自枠)」に「出願できる者は、上記の「3 出願資格」に加え、次の要件を満たすものとします。 ① 合格した場合は、入学することを確約できる者 ② 入学に当たっては、高知県が示すキャリア形成プログラムの対象者として「高知県医師養成奨学貸付金」を受けた上で、卒業後の一定期間、高知県内の地域医療に貢献することを確約できる者(高知県医師養成奨学貸付金制度の詳細を参照)	無		H22	
合計			25	15						

(※1) 貴大学において作成した学生募集要項に記載の内容をご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②令和6年度に実施する地域枠学生(令和7年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。
また、参考としてPRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	診療科の選定の有無	(診療科の選定(推奨)がある場合)その診療科名	開始年度	備考
				うち臨時定員分						
学校推薦型選抜Ⅱ(四国・瀬戸内地域枠)	(i)学校推薦型選抜	別枠(区別型)	20	14	<p>大学入学共通テストの成績は、令和7年度の成績を利用して判定します。大学入学共通テストの成績は、令和7年度以外の成績は利用しません。</p> <p>令和7年度大学入学共通テストの成績、面接に加え、調査書、推薦書、志望理由書を総合して判定します。</p> <p>面接は、個人面接の方法で行い、志望動機、意欲、適性等について総合的に評価します。面接時間はおおよそ15分です。ただし、面接評価のみで不合格とすることがあります。調査書、推薦書、志望理由書は面接の資料とします。</p>	<p>四国・瀬戸内地域(高知県、香川県、徳島県、愛媛県、兵庫県、岡山県、広島県、山口県)の高等学校を2023年4月から2025年3月までに卒業又は卒業見込みの者で、高等学校長が責任を持って推薦でき、かつ、次の(1)から(5)のすべての要件を満たす者</p> <p>(1) 高知県内の地域医療に従事する強い意欲を持つとともに、卒業後は高知県内の地域医療に貢献することを確約できる者</p> <p>(2) 調査書の全体の評定平均値が4.3以上の者</p> <p>(3) 医療従事者に不可欠な問題解決能力、態度・習慣、適性を具備している者</p> <p>(4) 合格した場合は、入学することを確約できる者</p> <p>(5) 入学した場合は、「高知県医師養成奨学金」を6年間受給することを確約できる者</p>	無		H21以前	
一般選抜	(iii)一般選抜地域枠(前期・後期)	手挙げ(事前)	5	0	<p>(1) 入学者の選抜は、令和7年度大学入学共通テスト、個別試験等(科目試験、小論文、面接、実技)及び調査書を総合して判定します。 ※大学入学共通テスト(大学入試センター試験)の過年度成績利用は行いません。 また、各学部・学科・課程、コース等で必要とされる大学入学共通テストの利用教科・科目を受験していない者は、個別試験等を受験することができません。</p> <p>(2) 次の学部・学科等の後期日程においては、入学選抜を実施しません。(医学部医学科、ほか)</p> <p>(3) 医学部においては、面接評価のみで不合格とすることがあります。</p> <p>(4) 医学部医学科の第1段階選抜の実施 医学部医学科の前期日程試験においては、志願者数が募集人員の4倍を超えた場合、個別試験等を適切に実施するため大学入学共通テストの成績により第1段階の選抜を行い、その合格者に対して、本学が実施する個別試験等を行います。</p> <p>(5) 医学部医学科「地域枠(大学独自枠)」の選抜(前期日程) 医学部医学科の前期日程に関しては、一般枠・地域枠(大学独自枠)の区分なく全受験者のうちから合格者を決定します。さらに合格者のうち、地域枠(大学独自枠)志願者の中から募集人員の範囲内で地域枠(大学独自枠)の合格者とします。なお、学校推薦型選抜Ⅱの募集人員に欠員が生じた場合は、地域枠(大学独自枠)の募集人員に加えます。</p>	<p>次の(1)から(3)のいずれかに該当し、かつ、志望する学部・学科等が指定する令和7年度大学入学共通テストの教科・科目を受験した者とします。</p> <p>(1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者又は2025年3月卒業見込みの者</p> <p>(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は2025年3月修了見込みの者</p> <p>(3) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第150条(第6号を除く)の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者又は2025年3月31日までにこれに該当する見込みの者</p> <p>医学部医学科「地域枠(大学独自枠)」出願資格(前期日程) 地域枠(大学独自枠)は、現在の居住地域及び出身学校等に関係なく高知県内の地域医療に従事する強い意欲を持つとともに、卒業後は高知県内の地域医療に貢献することを確約できる者を全国から募集するものです。この前期日程医学部医学科「地域枠(大学独自枠)」に出願できる者は、上記の「3 出願資格」に加え、次の要件を満たすものとします。</p> <p>① 合格した場合は、入学することを確約できる者</p> <p>② 入学に当たっては、高知県が示すキャリア形成プログラムの対象者として「高知県医師養成奨学金」を受けた上で、卒業後の一定期間、高知県内の地域医療に貢献することを確約できる者(高知県医師養成奨学金制度の詳細を参照)</p>	無		H22	
合計			25	14						

(※1) 貴大学において、PRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)に記載の内容(貴大学において作成予定の学生募集要項に記載予定の内容)をご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

1-2. 教育内容

①地域枠学生が卒後に勤務することが見込まれる都道府県での地域医療実習など、地域医療を担う医師養成の観点からの教育内容の概要（令和7年度）について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。

早期より医療の実際に触れ将来の医療人としての心構えや態度を身に付けるために、1年次に「EME初期臨床医学体験」として市中の診療所、福祉施設での実習を行っている。5～6年次の「臨床実習」では、へき地医療機関、福祉保健所での「地域医療学実習」や、地域医療支援病院等での「学外実習」を行い、県内の医療の実状について俯瞰的に学ぶことができるカリキュラムを実施している。令和4年度の1年生からは「臨床体験実習Ⅰ～Ⅲ」で地域拠点病院での実習を選択することが可能と

（参考：記入例）
1～2年次には、「○○」という科目を開講するとともに「△△」を必修化し、～～を学んでいる。3～4年次には、××実習を行い、～～を学んでいる。またキャリア支援として□□を実施している。令和7年度からは、■ ■を新たに開始するなど、～～を図ることとしている。

②（過去に地域枠を設定したことがある場合）これまでの取組・実績を、3～5行程度で簡潔にご記入ください。

平成21年度から地域枠増員を開始した。県と毎月1回連絡会を開催し情報共有を行う等、連携を密にし、学生の修学等の日常の相談から、将来のキャリア形成に関する支援を行えるよう個別面談を行っている。令和6年度までに355名の地域枠学生を確保し、そのうち約190名の卒業生が高知県内で医師として地域医療に貢献して

（参考：記入例）
平成○年度から地域枠による増員を開始し、□□、■ ■などの取組を行ってきた。令和6年度までに△名の地域枠学生を確保し、そのうち▲名が現在～～として地域医療に貢献している。

③上記①の教育内容（正規科目）について、講義・実習科目内容をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者 (※1)	必修／選択の別		講義／実習の 別	単位 数	開始年度
			地域枠学生	その他の学生			
1年	EME初期臨床医学体験	全員	必修	必修	実習	1	H21以前
1年	臨床体験実習Ⅰ	全員	必修	必修	実習	2	R4
2年	臨床体験実習Ⅱ	全員	必修	必修	実習	2	R5
3年	臨床体験実習Ⅲ	全員	必修	必修	実習	2	R6
5年	臨床実習Ⅰ	全員	必修	必修	実習	44	H21以前
6年	臨床実習Ⅱ	全員	必修	必修	実習	16	H21以前

（※1）対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。（地域枠学生の希望者のみの場合は、対象者を「地域枠学生」、必修／選択の別を「選択」とご記載ください。）

※空欄がある場合は、何も記入せずそのままにご提出ください。

④大学の正規科目以外で、提供する地域医療教育プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 (※1)	都道府県との連携	期間 (例：○週間)	プログラムの概要（1～2行程度）	開始年度
1～6年	家庭医道場	全員	県の寄附講座が主催し、寄附金により実施している。	3泊4日	地域に赴き地域の人々と接し、家庭医療に携わる者に必要な基本的な診療技能、医学知識、コミュニケーション能力の向上を目指す。	H21以前

(※1) 対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

⑤上記③④以外に、地域医療を担う医師の養成に関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。(令和5年度以前から継続する取組を含む) (1～2行程度)

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度
SEED学生交流会	地域枠を含む奨学金受給学生(SEED)の交流会を年1回実施している。	H21以前
高知県初期臨床研修連絡協議会	県内の初期臨床研修について協議する会に、SEED学生も委員として参画するようになった。	H25

※空欄がある場合は、何も記入せずそのままご提出ください。

2. 都道府県等との連携

①都道府県が設定する奨学金について、以下をご記入ください。併せて、都道府県が厚生労働省に提出する予定の地域の医師確保等に関する計画及び「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」(平成元年法律第64号)第4条に規定する都道府県計画等に位置づけることを約束する文書を添付して下さい。

なお、複数の奨学金を設定している場合は、それぞれ記入ください。

奨学金の設定主体	貸与人数	貸与対象	貸与額 (例: 200,000)		返還免除要件	選抜方法		診療科の選定の有無	(診療科の選定(推奨)がある場合)その診療科名	備考
			月額	総貸与額		選抜時期	大学の関与の有無(※1)			
高知県	25	新入生	150,000	10,800,000	県が指定する医療機関で勤務した期間の通算が、貸与を受けた期間の1.5倍に相当する期間に達した場合に、償還は全額免除される。	③地域枠入学者であれば別途選抜を実施せず貸与	○	無		大学が入学試験及び面接を行い選抜している。

(※1) 診療科の限定または推奨がある場合は、備考欄に詳細をご記入ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②その他、都道府県と連携した取組があれば、簡潔にご記入ください。(例: 在学中の学生に対する都道府県と連携した相談・指導、卒後のキャリアパス形成等に対する支援) (1~2行程度)

取組の名称	取組の概要 (1~2行程度)	開始年度
知事との意見交換会	知事が、県内医療の状況、住民の思いや奨学生への期待を直接伝えることで、医学生の地域医療に対する意欲促進を図る。	H21以前
学生・卒業医師との面談	学生、卒業医師の相談、キャリア支援を県、地域医療支援センターと分担して行い、定期的に情報共有を行っている。	H25
高知県医師養成奨学貸付金制度等運営会議	大学、県、県内医療関係者が委員となり毎年開催され、情報共有するほか、制度の改善、個別事例の支援などに繋げている。	H25

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

3. その他

1~2に記入したものを以外で、その他、地域の医師確保の観点から大学の今後の取組があれば、簡潔にご記入ください。(1~3行程度)

特に、都道府県からの奨学金の貸与を受ける者、地域枠入学者を確保するために貴大学で取り組まれていることや今後の取組み予定がありましたら、ご記入ください。

受験生に対する入試説明会において、県と協働し、地域枠入試、奨学金制度の説明会を実施している。入学直後には、地域枠入学者の保護者への医学部長の訓示、地域枠学生および任意で奨学金を希望する学生に対して県と協働で説明会を開催している。

大学別医学部入学定員一覧

大学名	属性 (国公私)	R6年度定員	本増員計画による 入学定員増を行わ ない場合の令和7 年度の入学定員	R7年度 増員数	R7年度 定員 (計画)
高知大学	国立	110	95	14	109

大学名	令和6年度 定員	本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和7年度の入学定員	令和7年度増員計画			令和7年度 定員 (計画)	令和7年度増員計画	
			増員数	都道府県ごとの内訳			教育内容の概要	
高知大学	110	95	地域枠	14	高知県	14	109	早期より医療の実際に触れ将来の医療人としての心構えや態度を身に付けるために、1年次に「EME初期臨床医学体験」として市中の診療所、福祉施設での実習を行っている。5～6年次の「臨床実習」では、へき地医療機関、福祉保健所での「地域医療学実習」や、地域医療支援病院等での「学外実習」を行い、県内の医療の実状について俯瞰的に学ぶことができるカリキュラムを実施している。令和4年度の1年生からは「臨床体験実習Ⅰ～Ⅲ」で地域拠点病院での実習を選択することが可能となっている。
					0	0		
					0	0		
					0	0		
					0	0		
					0	0		
			研究医枠	0		#REF!		

教育課程等の概要																		
(高知大学医学部医学科)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員		
共通教育科目	導入科目群	大学基礎論	1前	○	2			○			1					兼2		
		学問基礎論	1後	○	2			○			3					兼1		
		課題探求実践セミナー	1前	○	2				○					1				
		小計（3科目）			6			-			4			1		兼3		
	国際コミュニケーション	基軸英語	1前・後		1				○							兼2	単位数は1題目当たりの単位数。一部2単位の題目あり。3題目開講。	
		国際英語	1後			2			○							兼3		
		初修外国語、日本語	1前			2			○							兼10		
		小計（3科目）			1	4			-							兼10		
	AI科目群	数理・データサイエンス・AI科目	1前・後	○	2				○		1			3		兼1	単位数は1題目当たりの単位数。2題目開講。	
		小計（1科目）			2				-		1			3		兼1		
	教養科目群	視野を広げる科目	人文・社会科学系領域	1前・後			2		○								兼6	単位数は1題目当たりの単位数。一部1単位の題目あり。108題目開講。
			自然科学系領域	1前・後			2		○		1						兼6	
			複合領域	1前・後			2		○								兼6	
			小計（3科目）			6			-								兼18	
生きる力を育む科目		生活	1前・後			2		○									兼6	
	医療・健康・スポーツ	1前・後			2		○									兼6		
	キャリア形成	1前・後			2		○									兼5		
	芸術	1前・後			2		○									兼3		
小計（4科目）			8				-								兼20			
専門科目	医学概論	1通	○	2			○			19	4	3			兼5	オムニバス		
	実践医学英語	1後	○	1			○								兼1			
	国際英語	2前			1		○								兼1			
	研究医学英語	2前			1		○				8	2	2		兼1	オムニバス		
	読解英語	2前			1		○								兼1			
	数理学Ⅰ	1前	○	1			○								兼1			
	数理学Ⅱ	1後	○	1			○								兼1			
	医科物理学Ⅰ	1前	○	1			○			1								
	医科物理学Ⅱ	1後	○	1			○			1								
	生命現象化学	1前	○	1			○								兼1			
	医科生物科学Ⅰ	1前	○	1			○								兼2	オムニバス		
	医科生物科学Ⅱ	1後	○	1			○								兼2	オムニバス		
	医科生物学実習	1前	○	1					○						兼2	オムニバス集中		
	EBMⅠ	1後	○	2					○		1		2		兼1	オムニバス		

EBM II	3前	○	1		○		1		3		オムニバス		
統合医学 I	1後	○	2			○	1						
統合医学 II	2通			3		○	1		1	兼3	オムニバス		
統合医学 III	3通			3		○	1						
統合医学 IV	4通			3		○	2	1			オムニバス		
先端医療学コース II	2通			3		○	8	1		兼1	※実験・実習		
先端医療学コース III	3通			3		○	9	2			※実験・実習		
先端医療学コース IV	4通			3		○	9	1		兼1	※実験・実習		
遺伝子医学	2前	○	1		○		1		1		オムニバス		
遺伝子医学実習	2前	○	1				○	1	1		オムニバス 集中		
細胞分子生物学	2前	○	1		○					兼2	オムニバス		
解剖学 I	2前	○	6		○		1	2	3	兼1	オムニバス ※実験・実習		
解剖学 II	2後	○	6		○		1	2	3	兼3	オムニバス ※実験・実習		
生化学	2通	○	2		○				1	兼1	オムニバス		
生化学実習	2前	○	1						○	1	1	オムニバス 集中	
生理学	2通	○	5		○		2	1	4	兼3	オムニバス		
生理学実習	2後	○	2				○	2	1	4	兼1	オムニバス 集中	
微生物学	2後	○	2		○		1		1	1		オムニバス	
微生物学実習	2後	○	1						○	1	1	オムニバス 集中	
基礎社会医学	2後	○	1		○		1		2	兼2	オムニバス		
医療倫理 I	2後	○	1		○		1						
医療倫理 II	3前	○	1		○		2	2	2	3	兼1	オムニバス	
漢方医学	3前	○	1		○		1			1	兼3	オムニバス	
病理学	3前	○	4		○		1	1		3		オムニバス	
病理学実習	3後	○	1						○	1	1	3	オムニバス
病理CPC演習	3後	○	1			○	1	1		1			オムニバス
寄生虫学	3前	○	1		○						兼3	オムニバス	
免疫学	3前	○	2		○				1	1			オムニバス
免疫学実習	3前	○	1						○	1	1	兼1	オムニバス 集中
薬理学	3通	○	3		○				1	1			オムニバス
薬理学実習	3後	○	1						○	1	1	1	オムニバス 集中
応用社会医学	3前	○	1		○		1	1					オムニバス
保健医療制度	3前	○	1		○		1	1					オムニバス
地域医療学	3後	○	1		○		1				兼10		オムニバス
外科学総論	3後	○	1		○		2	2	1	3	兼2		オムニバス
臨床遺伝病学総論	3後	○	1		○		2	1	2	3	兼4		オムニバス
臨床腫瘍学総論	3後	○	1		○		5	3	2	2	兼1		オムニバス
臨床免疫学・アレルギー病学	3後	○	1		○		2	5	1	4	兼2		オムニバス
臨床検査医学	3後	○	1		○		1		1	1	兼2		オムニバス
画像診断学基礎論	3後	○	1		○		1	1	1	4	兼7		オムニバス
放射線医学	4前	○	1		○		1				兼5		オムニバス

社会医学演習	4前	○	2			○		2	1	1					オムニバス 集中
中毒学	4後	○	1			○		1		2					オムニバス
法医学	4前	○	1			○		1	1	1					オムニバス
法医学実習	4前	○	1				○	1	1	2					オムニバス 集中
乳腺	4前	○	1			○		1	1		1		兼4		オムニバス
血液病学	4後	○	1			○		1	1	1			兼1		オムニバス
呼吸器病学（内科学・外科学）	4前	○	2			○		2	1	1	5		兼6		オムニバス
移植医学と輸血	4前	○	1			○		3	1	2			兼4		オムニバス
神経病学	4後	○	1			○		1		1	1		兼4		オムニバス
老年病学	4後	○	1			○		1	2	1	1		兼2		オムニバス
循環器病学（内科学・外科学）	4通	○	2			○		2	1	1	4		兼7		オムニバス
消化器病学（内科学・外科学）	4前	○	2			○		2	3	3	4		兼6		オムニバス
腎臓病学	4前	○	1			○		1	1	2	2		兼3		オムニバス
内分泌・代謝学	4前	○	1			○		1		1	3		兼6		オムニバス
小児科学	4後	○	1			○			1	1	6		兼2		オムニバス
脳神経外科学	4後	○	1			○		1	1	1	4		兼6		オムニバス
皮膚科学	4後	○	1			○		1	1	1	1		兼5		オムニバス
整形外科学・リハビリテーション医学	4後	○	1			○		1	2	2	3		兼6		オムニバス
泌尿器科学	4前	○	1			○			2	2	5		兼4		オムニバス
産科・婦人科学	4前	○	1			○			1	2	4		兼4		オムニバス
眼科学	4後	○	1			○		1	1	1	4		兼7		オムニバス
耳鼻咽喉科学	4前	○	1			○			1		3		兼3		オムニバス
歯科口腔外科学	4前	○	1			○		1	1	1	2				オムニバス
神経精神科学	4前	○	1			○		1		1	3		兼11		オムニバス
臨床感染症学	4後	○	1			○		1	2	2	2		兼2		オムニバス
医療安全学	4後	○	1			○		3	1	2			兼4		オムニバス
救急医学総論	4前	○	1			○		1			1		兼5		オムニバス
麻酔科学	4前	○	1			○		1	1	2	5		兼1		オムニバス
臨床薬理学	4後	○	1			○		1					兼6		オムニバス
臨床症候学 I	2後	○	1			○		1		1					オムニバス
臨床症候学 II	3前	○	2			○		1		1					オムニバス
臨床推論学	3後	○	2			○		1	1	2	7		兼1		オムニバス
基本的診療技能	3通	○	2			○		4	3	3	6		兼8		オムニバス
基本的診療技能実習	4通	○	3				○	2			1				オムニバス
医療コミュニケーション学	4前	○	1			○			1						オムニバス
EME初期臨床医学体験	1前	○	1				○	2							オムニバス
臨床体験実習 I	1後	○	2				○	1							集中
臨床体験実習 II	2前	○	2				○	1							集中
臨床体験実習 III	3後	○	2				○	1							集中
臨床体験実習 IV	4後	○	2				○	1							集中
臨床実習 I	5通	○	44				○	27	19	20	79		兼55		オムニバス 集中

臨床実習Ⅱ	6前	○	16				○	27	19	20	79	兼55	オムニバス 集中
統合医学総論	6通	○		3	○			19	4				オムニバス 集中
Research Course I	2通	○		1		○		9	2			兼3	集中 ※実験・実習
Research Course II	3通	○		1		○		9	2			兼3	集中 ※実験・実習
Research Course III	4通	○		1		○		9	2			兼3	集中 ※実験・実習
Research Course IV	5通	○		1		○		9	2			兼3	集中 ※実験・実習
Research Course V	6通	○		1		○		9	2			兼3	集中 ※実験・実習
小計 (103科目)			185	21	8			45	31	36	102	兼175	

合計 (117科目)	—	—	194	39	8	—		45	31	36	102	兼230	
------------	---	---	-----	----	---	---	--	----	----	----	-----	------	--

学位又は称号	学士 (医学)	学位又は学科の分野	医学関係
--------	---------	-----------	------

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等
---------------	-------

【卒業要件】 共通教育科目30単位(導入科目群14単位は必修)、専門科目195単位以上(うち必修科目185単位)を修得し、合計225単位以上修得すること 【履修方法】 【共通教育科目】(30単位) ◎導入科目群 14単位 「大学基礎論」、「学問基礎論」、「課題探求実践セミナー」、「大学英語入門」、「英会話Ⅰ」、「英会話Ⅱ」、「情報とデータリテラシー」、「データサイエンス入門」の8科目(計14単位)を必修科目とする。 ◎国際コミュニケーション科目、教養科目群 16単位 国際コミュニケーション科目及び教養科目群で開設する授業科目7科目のうち3科目以上から16単位修得しなければならない。 【専門科目】(必修科目91科目185単位を含む計195単位) ◎「国際英語」「研究医学英語」「読解英語」から 1科目1単位を選択必修とする。 ◎「統合医学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」又は「先端医療学コースⅡ・Ⅲ・Ⅳ」から 3科目9単位を選択必修とする。	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	15週
	1 時限の授業の標準時間	90分

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校等の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校等の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要における授業科目の名称について

高知大学の共通教育科目においては、〇〇分野科目等を「授業科目」と定めており、この「授業科目」により、要卒単位数などの規定を定めている。各「授業科目」の下に、複数の「授業題目」が開講されている。

例) 共通教育・導入科目群・国際コミュニケーション科目

「授業科目」	「授業題目」
初修外国語・日本語	ー ・ドイツ語Ⅰ
	・ドイツ語Ⅱ
	・フランス語Ⅰ
	・フランス語Ⅱ
	・
	・
	・

例) 共通教育・教養科目群・視野を広げる科目

「授業科目」	「授業題目」
人文・社会科学系領域	・医療人類学
	・食の哲学
	・考古学の論点
	・憲法を学ぶ
	・
	・
	・

科目区分		授業科目	授業題目	単位数
共通教育科目	導入科目群	大学での学びかた科目	大学基礎論	2
			学問基礎論	2
			課題探求実践セミナー	2
	国際コミュニケーション科目	基軸英語	英会話Ⅰ	1
			英会話Ⅱ	1
			大学英語入門Ⅰ	1
			大学英語入門Ⅱ	1
		国際英語	国際英語	2
			TOEIC英語	2
			教養英会話	2
		初修外国語、日本語	ドイツ語Ⅰ	2
			ドイツ語Ⅱ	2
			フランス語Ⅰ	2
			フランス語Ⅱ	2
			中国語Ⅰ	2
			中国語Ⅱ	2
			韓国語（朝鮮語）Ⅰ	2
			韓国語（朝鮮語）Ⅱ	2
			スペイン語Ⅰ	2
			スペイン語Ⅱ	2
			日本語Ⅰ	2
			日本語Ⅱ	2
		日本語Ⅲ	2	
		数理・データサイエンス・AI科目	数理・データサイエンス・AI科目	情報とデータリテラシー
	データサイエンス入門			2
	教養科目群	生活	地域活性化について学ぶ	2
			アントレプレナーシップ入門	2
			しあわせ研究入門	2
			よさこい概論	2
			協働実践自己分析	2
			サービ斯拉ーニング演習	2
			大学生生活スキルトレーニング入門	2
		医療・健康・スポーツ	スポーツ科学講義A	スポーツ科学講義A
スポーツ科学講義B				2
スポーツ科学講義C				2
スポーツ科学実技（硬式テニス）				1
スポーツ科学実技（体づくり）				1
スポーツ科学実技（卓球）				1
スポーツ科学実技（バドミントン）				1
スポーツ科学実技（ソフトバレーボール）				1
スポーツ科学実技（エアロビクス）				1
スポーツ科学実技（一から学べる筋力トレーニング）				1
スポーツ科学実技（剣道）				1
スポーツ科学実技（バスケットボール）				1
スポーツ科学実技（フットサル）				1
スポーツ科学実技（ローンボウルズ）				1
スポーツ科学講義				2
環境保健学				1

共通教育科目	教養科目群	生きる力を育む科目	キャリア形成	生涯教育論	2
				異文化間の能力を開発する	2
				IELTS / TOEFL / 英検対策コース	1
				プロフェッショナルコミュニケーションのための英語	2
				International Media and Journalism	2
				Short-term Study Abroad Program	2
				Study Abroad Supplementary Program	2
				博物館学内実習	2
				博物館館園実習	1
				教育心理学概論	2
				介護等体験	2
				教育学・教育課程概論	2
				地域フィールドワーク入門	1
				カルチャーシェアリング	1
				ベーシック国内サービスラーニング	4
				ベーシック海外サービスラーニング	4
				アドバンスド国内サービスラーニング	4
				アドバンスド海外サービスラーニング	4
				SBI (Society Based Internship)	2
				地域キャリア論	2
		大学生活と心理学	2		
		キャリア戦略立案入門 ～高知の中核人材から学ぶ～	2		
		芸術	高知の写真を知る	2	
			合唱初級	2	
			ガムラン演奏基礎演習	2	
			マスメディアと音楽	2	
			デッサンの世界	2	
			名曲とたどるピアニストの系譜	2	
		視野を広げる科目	人文・社会科学系領域	食の哲学	2
				哲学を考える	2
				説話を読む	2
				言語地図から考える日本語方言	2
				超平安文学基礎講義	2
				The Origins and Evolution of English	2
				考古学の論点	2
				スポーツと娯楽のイギリス史	2
長宗我部元親の四国制覇	2				
歴史を学ぶ	2				
戦争を考える	2				
高知の地理	2				
心理学の世界	2				
心理学を学ぶ	2				
スタディ・スキルとしての日本語表現入門	2				
レポート作成のための思考と文章表現	2				
文化財保存科学概論	2				
English as a Global Language	2				
フェミニスト現象学入門	2				
体験で学ぶ心理学研究	2				

共通教育科目	教養科目群	視野を広げる科目	人文・社会科学系領域	法を学ぶ	2
				社会学を学ぶ	2
				市民生活と法	2
				憲法を学ぶ	2
				危機管理入門	2
				国際経済を考える	2
				地域経済概説	2
				食と農の経済学	2
				はじめての金融経済	2
				高知の産業と地域活性化	2
				社会起業論	2
				大学政策論入門	2
				非営利法人経営論入門	2
				高知の中小企業を知る	2
				川と人の生活誌	2
				社会学を学ぶ	2
				スポーツ文化論	2
				国際協働演習I	2
				国際協働演習II	2
				土佐の伝統工芸	2
				男女共同参画社会を考える	2
				障害者支援入門	2
				グローバル化時代の日本論	2
				国際ボランティア概論	2
				地域文化理解	2
				地域協働入門	2
				地方創生グローバル演習 I	2
				地方創生グローバル演習 II	2
				Japanese Studies I	2
				Japanese Studies II	2
				DXとビジネス創出	2
				越境社会文化論入門	2
				日本事情III	2
				日本事情IV	2
				食生活論	1
				居住環境論	1
				医療人類学	2
				生命倫理学	1
				社会学	1
				コミュニケーション論	1
家族社会学	1				

共通教育科目	教養科目群	視野を広げる科目	自然科学系領域	数の概念入門	2
				体験する数学	2
				大学数学へのいざない	2
				トポロジーと圏基	2
				物理学入門	1
				法化学概論	2
				物質の科学	2
				化学入門	1
				渚の自然史	2
				生命の科学	2
				生物学入門	1
				生活の中の植物・菌類	2
				海洋生物学基礎実習	2
				地球と宇宙	2
				大地の災害	2
				地震の災害	2
				気象と波の災害	2
				災害と生きる	2
				地球科学入門	1
				さわってわかるAI講座 ～基礎理論からクラウドサービスを使った実践まで～	2
				情報セキュリティ入門	2
				情報社会と情報技術	2
				初等プログラミング入門	2
				フードサイエンスの世界	2
				海洋を考える	2
				地域の農林資源と環境科学	2
				土佐の自然と農林業	2
				高知の最先端農業IoT入門セミナー	2
				ライフサイエンスの世界	2
				自然科学の歴史	2
				社会を変えた化学・生物学	2
				数理の世界	2
				データ農業をやってみよう！IoTサマースクール	2
			次世代農業を感じてみよう！IoTスプリングスクール	1	
			データ活用のためのプログラミング入門	2	
			データサイエンス実践課題演習	2	
			有機化学概論 中級	2	
			複合領域	現代社会の諸問題	1
				高知の人と企業を知る	2
				土佐の海の世界環境学Ⅰ：柏島の海から考える	2
				障害者支援の理論と実践	2
				動画作成セミナー：高知の企業の魅力を伝えよう	2
				国際協働入門	2
				地域防災入門	2
				自由探求学習	2
				自由探求学習	2
学びを創る	2				

地域医療に関する学部教育のカリキュラムの概要

正課の講義、実習	1年	2年	3年	4年	5年	6年	期間	授業場所	教育内容
EME初期臨床医学体験	○						第1学期	附属病院、市中のクリニック、介護老人保健施設等	早期より医療の実際に触れ、将来の医療人としての心構えや態度を身に着ける。
臨床体験実習Ⅰ	○						第2学期集中	附属病院、黒潮医療人養成プロジェクト教育拠点病院	上級生(臨床実習生)や研修医に帯同して、指導医のもとで、臨床現場を体験し、今後の医学生としての学びや卒業後のキャリアについて学ぶ。
基礎社会医学		○					第2学期	学内	産業保健を含む環境保健、国際保健と免疫入門
臨床体験実習Ⅱ		○					第1学期集中	附属病院、黒潮医療人養成プロジェクト教育拠点病院	上級生(臨床実習生)や研修医に帯同して、指導医のもとで、臨床現場を体験し、今後の医学生としての学びや卒業後のキャリアについて学ぶ。
保健医療制度			○				第1学期	学内	国民の健康確保のための保健医療福祉等について医師としての関わりに主眼を置いて学習する。
地域医療学			○				第2学期	学内	地域医療の現状と課題について理解し、課題解決のための基礎的な思考力、判断力を身に付ける。県内外の地域医療の第一線で勤務する講師を招聘している。
臨床体験実習Ⅲ			○				第2学期集中	附属病院、黒潮医療人養成プロジェクト教育拠点病院	上級生(臨床実習生)や研修医に帯同して、指導医のもとで、臨床現場を体験し、今後の医学生としての学びや卒業後のキャリアについて学ぶ。
社会医学演習				○			第1学期集中	学内	社会医学の活動の重要性について、文献考察、調査、研究などを通じて理解を深める。
臨床実習Ⅰ (地域医療学実習、学外実習)					○		第1・2学期	附属病院、関連教育病院	指導教員、医員から構成される医療チームに配属され、指導医の指導・監視のもと一定の医療行為を行い、実際の診療に関与する。実習先には、へき地医療機関、福祉保健所、介護保険施設、等も含まれる。
臨床実習Ⅱ						○	18週間	附属病院、関連教育病院	
課外実習	1年	2年	3年	4年	5年	6年	期間	授業場所	教育内容
家庭医道場	○	○	○	○	○	○	1泊2日	県内の中山間地	地域の人々と接し、家庭医療に携わる者に必要な基本的な診療技能、医学知識、コミュニケーション能力の向上を図る。医学科の学生だけではなく、看護学科の学生も参加し、多職種連携教育にもなっている。

黒潮医療人養成プロジェクト

- 太平洋に面し長い海岸線を有する地理的な共通点があり、遠隔地の過疎高齢化という共通課題がある
- 南海トラフ巨大地震による大きな津波被害が想定され、災害医療、公衆衛生において大きな地域ニーズが発生する
- 3県の地域卒卒業医師のうち、総合診療、救急医療を選択した者は4.0%
- このような医療偏在の解消、地域ニーズに応える「黒潮医療人」を養成する
- 地域医療人材養成拠点病院での実習の強化、遠隔医療の利活用
- 大学間連携の強化をはかり、教育手法を共有するとともに、学生の学びを多様化する



サイトビジット

教育コンテンツ共同開発

学生を相互に受け入れ

大学間連携の強化

授業参観

学生交流

合同カンファレンス

6年間を通じて段階的に地域への理解を深める

アクティブラーニングコース

- 複数年次にわたり継続指導、体験を重視
- 地域課題、ニーズを深く理解
- 学会発表、論文執筆、研究マインドの醸成
- 地域総合診療コース、災害救急コース
- 1~6年次 最大のべ538人/年

体験実習

- 地域医療人材養成拠点病院等で実習
- 将来の医師像をイメージする
- 地域ニーズを感じる
- 地域包括ケアシステム、遠隔医療の体験
- 1~3年次 最大のべ482人/年

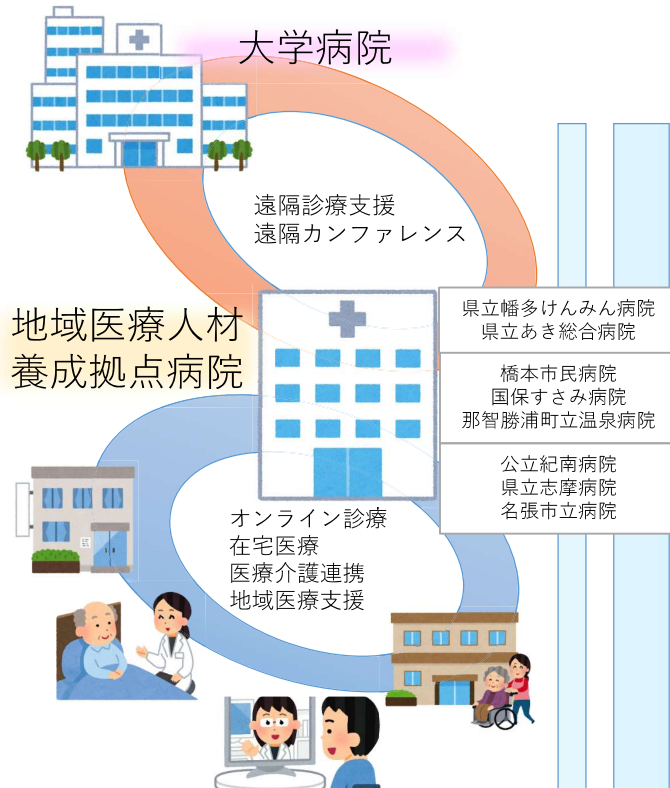
長期滞在型クリニカルクラークシップ

- 地域医療人材養成拠点病院等で長期滞在
- 頻度の高い病態、地域医療連携の理解
- 遠隔医療、遠隔カンファレンス
- 三大学合同オンライン指導、カンファレンス
- 6年次 4~7月 最大のべ31人/年

合同シンポジウム

- 成果の発表、共有
- 教育講演
- 情報発信
- オンライン+現地開催
- 1~6年次

地域ニーズに応える黒潮医療人



大学病院

遠隔診療支援
遠隔カンファレンス

地域医療人材
養成拠点病院

オンライン診療
在宅医療
医療介護連携
地域医療支援

県立幡多けんみん病院
県立あき総合病院

橋本市民病院
国保すさみ病院
那智勝浦町立温泉病院

公立紀南病院
県立志摩病院
名張市立病院

期待される効果

- 教育の質の向上 (ICTの活用)
- 地域医療人材養成拠点病院、自治体、地域医療支援センターの連携強化
- 総合診療、救急、感染症など分野横断的な診療科に進む医師の増加
- 地域志向性の高い入学者の増加
- 地域卒学生の地域に貢献する意欲の涵養
- 地域に定着する医師の増加

高知大学医学部寄附講座(家庭医療学講座)

高 知 県

寄附

3,000万円/年
令和4～8年度
(5年間)

【目的】

へき地における総合診療及び、その基盤となる家庭医療学について、学生から初期臨床研修医、専攻医、生涯にわたる教育システムの開発及びコミュニティを基盤とした研究を行うことを通じて、高知県内の地域包括ケアシステムの普及、発展に資することを目的とする

高知大学医学部

寄附講座(家庭医療学)

【事業】

- へき地における家庭医療を実践する総合診療専門医の養成システムの開発
- 地域医療マインドの涵養を目的とした卒前医学教育
- 地域医療に従事する医師の生涯教育に関する事業
- IT機器を利用した遠隔医療システムの研究開発
- へき地における健康維持、疾病分析、早期診断・治療に関する臨床疫学的研究
- 地域包括ケアシステムの普及、発展に関する研究
- 上記の研究成果に関する普及啓発

土佐山へき地診療所
県内自治体病院、等

研究拠点

へき地をフィールドとした研究開発

連携・協働

高知地域医療支援センター
高知県臨床研究フェローシップ
(一社)高知医療再生機構 等

寄附講座の概要

(1)設置目的

高知県は、東西に広がる 250km 以上の長さに加え、北は四国山地、南は太平洋に挟まれ、四国の中でも孤立した地理的条件にある、全国有数の過疎化、高齢化先進県である。人口は 80 万人を割り、その 70%が高知市を中心にした中央医療圏に集中している。

医師・歯科医師・薬剤師統計によると高知県内の診療従事医師数は 2,094 人（平 14）から 2,095 人（平 22）と 1 人のみの増加にとどまったが、その後、2,237 人（平 30）と回復が見られる。しかし、一方で、40 歳未満の医師数は 750 人（平 14）から 551 人（平 22）、517 人（平 26）と減少が続いていたが、552 人（平 28）、570 人（平 30）と徐々に回復しているものの、以前の状態まで回復していない。これを地域別にみると、高知市 244 人（平 22）、高知市以外 251 人（平 26）まで減少したが、その後、平成 30 年には、高知市 286 人、高知市以外 284 人まで回復している。しかし、いずれも平成 14 年の医師数には及ばず、依然、厳しい状況が続いている。

人口減少、高齢化率の上昇に伴い、急性期医療/臓器別専門医療は集約化にむかい、中山間地域などでは、家庭医療を実践する総合診療専門医への期待が高まっている。一方で地域医療構想では、急性期病院中心の医療体制から、日常生活圏域を中心とした地域包括ケアシステムの構築が急務となっている。したがって、都市部において在宅医療、福祉・介護との連携も重要であり、そうした地域を支える総合的な診療能力を持った医師（総合診療専門医、家庭医療専門医）の必要性は益々高まってくると考えられる。とくに上記のように 40 歳未満の医師が減少していることは、将来にわたっての持続可能な医療システム構築が困難であることが危惧される。したがって、医学部入学時より継続して高知県の地域を意識した教育が不可欠であると考えられる。

設置される家庭医療学講座においては、住民のニーズにあった医療を確保するための基盤的研究を展開するとともに、その中心的な役割を担う人材育成が大きな役割となる。卒前から卒後に至るまで一貫した地域医療教育、地域支援、生涯教育としての支援方法などの研究により、高知県の将来の医療体制の充実に寄与することが期待される。

(2)教育研究内容の概要

① へき地における家庭医療を実践する総合診療専門医の養成システムの開発

へき地における家庭医療の充実と質の向上を図るには、へき地医療と家庭医療に関する研究と専門医の養成が重要である。へき地の地理的特性、特有の文化・風習を把握し、地域の特性に合わせた生活ベクトルの修正も視野においた総合的な家庭医療学の教育システムの開発が求められる。

家庭医療学講座は、平成 20 年度より日本プライマリ・ケア連合学会の認定を受けた高知大学医学部総合医・家庭医養成後期研修プログラム、平成 26 年度より高知県立病院群総合医・家庭医養成後期研修プログラム、平成 30 年度より日本専門医機構の認定を受けた高知家総合診療専門研修プログラムを運営し、専攻医の指導をおこない、すでに 9 名の専門医を輩出するなど実績を重ねている。今後は総合診療領域のサブスペシャリティである家庭医療専門医、病院総合診療専門医などの研修体制の充実が期待される。

②地域医療マインドの涵養を目的とした卒前医学教育

平成 19 年のモデルコアカリキュラムの改訂にともない、地域医療教育は医学教育として必須のものとなった。それは、社会から求められる医師の養成という時代

のニーズであり、それに応えることは医育機関としての責任でもある。地域医療教育は、地域住民、医療機関などの地域資源と有機的な連携のもとで行うことが重要である。

家庭医療学講座は、卒前教育では、地域医療学の科目責任者として講義を担当する他、EME 初期臨床医学体験、地域医療／プライマリ・ケア実習、臨床実習（II）で多学年にわたり実習指導をおこなう。また、課外実習である家庭医道場は、家庭医および地域医療のあり方についての教育として有効であり、今後も継続的に実施することで大きな効果が期待できる。平成 29 年度のモデルコアカリキュラムでは地域医療教育はさらなる拡充が求められる見込みであり、家庭医療学講座の果たす役割が大きくなるものと考えられる。

また、初期臨床研修の必修領域である地域医療研修は、すべての医師が地域での診療を理解する重要な機会である。高知県、高知医療再生機構、高知県へき地医療協議会、高知県国保連合会、等と連携しながら研修の質の向上に寄与することが期待される。

また、平成 23 年に発足した一般社団法人全国地域医療教育協議会では、世話人も務めており、高知大学のみならず、日本全体の地域医療教育について質の向上に寄与する立場にある。こうした場で得られた先進的な取組みを導入することにより、質の高い地域医療教育を高知大学の学生に提供することが期待できる。

③地域医療に従事する医師の生涯教育に関する事業

地域卒卒業医師が増加しつつあり、医師不足地域で勤務する医師の生涯学習のニーズ増加が予想される。オンラインでの講演会の開催、オンデマンドの学習コンテンツの提供などが期待される。一般社団法人高知医療再生機構、高知地域医療支援センター、高知県臨床研究フェローシップ、県内医療機関とも連携・協働し、地域で勤務しながらも自らの研鑽ができる環境の構築を目指していく。

④IT 機器を利用した遠隔医療システムの研究開発

遠隔医療については、新型コロナウイルス感染の拡大により、重要度が増している。現在、オンライン会議ツールを利用して、ケアカンファレンス、職員のミーティング、学生実習での利用が行なわれているが、さらに充実が求められる。オンライン診療も普及を進めていく必要があるが、通信環境のセキュリティの確保、一般住民の情報機器のリテラシー、診療の質の確保など多くの課題がある。研究開発を進め、地域医療の質の向上に寄与することが期待される。

⑤へき地における健康維持、疾病分析、早期診断・治療に関する臨床疫学的研究

これまで、土佐山診療所の存在する土佐山地区住民を対象として、へき地在住高齢者におけるインフルエンザワクチン接種前後の抗体価に関する研究をおこない、学会、医学雑誌、等に発表してきた。土佐山診療所は、令和 6 年 3 月までの指定管理の継続が決定しており、今後も、土佐山地区をフィールドとした臨床疫学的研究が可能である。また、他の地域においても臨床疫学的研究の展開が期待される。高知県臨床研究フェローシップとの相乗効果も期待される。

⑥地域包括ケアシステムの普及、発展に関する研究

現在、人口減少、高齢化率の上昇により、医療需要が変化しつつある。急性疾患を治療して退院という病院中心の医療モデルは減少し、慢性疾患を持ちながらも住み慣れた場所で暮らし続ける地域中心の医療モデルが増加することが予想される。こうした状況下で、医療は、福祉・介護・生活支援との連携しながら地域包括ケア

システムを構築することとなる。地域包括ケアシステムの推進のためには、多職種連携、住民協働の視点が重要である。

家庭医療学講座には、医療・介護・福祉に携わる専門職との連携の社会的な意義、具体的な手法について研究を行うとともに、認知症施策、在宅ケア、終末期医療、高齢者の意思決定などについても、メディアや講演会を通じて一般住民に対する啓発活動を行うことが期待される。

⑦研究成果に関する普及啓発

こうした教育、研究開発の成果は、これまでも、学会活動、メディア、講演会等を通して普及啓蒙活動を行ってきたところである。単に普及を行うのではなく、人材の育成、地域での人的ネットワークの構築など、地域自体の発展に繋がることが重要であり、そのような活動を継続していく。

(3) 期待される効果

現在、行っている教育、研究開発を広くアピールすることにより、地域志向性の高い入学生の獲得に繋がっている。地域志向性の高い医学生に継続的に教育をおこなうことで、単に総合診療医、家庭医を養成するだけではなく、高知県の地域医療を担う人材の育成に寄与することが期待される。こうした活動は、高知県の地域医療全体の充実、高知大学医学部の発展にも貢献できるものと考えられる。

キャリア形成卒前支援プラン

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
個別支援	希望者・成績不良者・長期欠席者面談（随時）					
	奨学金面接				キャリア支援定期面接	
ネットワーク支援	医学部長懇談		県内臨床研修病院合同説明会（6月、2月）			
			SEED交流会（6月、12月）			
			知事との意見交換会（年1回）			
実習等					幡多地域医療道場（8月）	
					高知県地域医療夏期実習（8月）	
					中四国地域医療フォーラム(2月)	
ポストコロナ時代の地域医療人材養成拠点形成事業	アクティブラーニングコース（医療DX、地域総合診療、災害救急）					
				合同オンラインシンポジウム（3月）		
					LIC※	
(参考)正課	臨床体験実習	臨床体験実習	臨床体験実習	地域医療学(講義)	地域医療学実習・学外実習（クリニカルクラークシップ）	

高知大学、高知地域医療支援センター
 高知県
 その他

※LIC ; Longitudinal Integrated Clerkship

病後児保育の実施について

病気は回復したが、まだ学校や保育園に行かせることができない、どうしても仕事が休めない、頼める人がいない等の状況の時に、乳幼児及び児童をお預かりすることで、職員の子育て及び就労の両立を支援することを目的に、本学医学部において、病後児保育を平成 26 年 9 月 1 日から実施しています。

○概要

①保育場所

本学レジデントハウス 2 階（201 号室）

②利用対象者

本学医学部及び医学部附属病院に勤務する職員が養育する生後 6 ヶ月から小学校 3 年生までの乳幼児及び児童で、病気の回復期にあるもの。

③利用定員

最大 3 名

④保育時間

7 時 30 分～18 時 30 分

（事前予約が無い場合は、9 時～17 時）

⑤休業日

土・日曜、祝日、年末年始

⑥利用料

1 日につき 2,000 円

⑦受診付添料

1 回あたり 2,000 円